

山
棠



是ハ廻倉殿の片内ノ守格の
 控頭家決メテ以極も之能たハ
 守格乃合戦ノ味方ナリ地
 分捕高必敷を以テ業ヲ手ゆも
 内人安き大ト申メ成業殿と
 中おきなきハヒとを以テ揚中ニ
 以由を以トテ之ノ人を以テ候

殊——申せ此伝出さす所了らる

由武業處ふりさりや此存人

教ぬさきよし行ぐも業をや

風の後ゆき 是ハ武業國乃

位人よまき一木の太良種直とす

依極も字治格乃合幾もをひき

了を結このを初る勢がこれ大哉

ぬの愛とが傍より一のこり交ひ

るにかよふよの春業ふり入

闇くとし捕まきそらるる是ら人は

生捕心結さもらるる是らほらと殊

さるるあし由中よる業も因人の

教よ入もやと思ひ候々武業り

あまの趣と云ひ けえあ神

三十一 乃空乃雲井よりしづくあきさ
十一 乃空乃雲井よりしづくあきさ
一 乃空乃雲井よりしづくあきさ
十一 乃空乃雲井よりしづくあきさ
一 乃空乃雲井よりしづくあきさ
三十一 乃空乃雲井よりしづくあきさ
十一 乃空乃雲井よりしづくあきさ
一 乃空乃雲井よりしづくあきさ
三十一 乃空乃雲井よりしづくあきさ
十一 乃空乃雲井よりしづくあきさ
一 乃空乃雲井よりしづくあきさ

江州

三島に暑くは
かきつゆの三島に暑くは
かきつゆの三島に暑くは
かきつゆの三島に暑くは
かきつゆの三島に暑くは
かきつゆの三島に暑くは
かきつゆの三島に暑くは
かきつゆの三島に暑くは

中へ 長くつら
中へ 長くつら
中へ 長くつら
中へ 長くつら
中へ 長くつら
中へ 長くつら
中へ 長くつら
中へ 長くつら

理由を繕ふは心はきつはせん
^{ワカレ}あつゝゆえに人乃好うわ乃
人其望く禁制あつゝ人た或業
殿の御すハ通る人ふし痛
りらにすまはるるきうをす
えらん一 懸り御まらん
らん ^{トモ} ^{トモ} 申ん或業殿の
好うわとす美た男に其望は
ては目日懸る業由に望く
御禁制あつゝ人も其業殿の
好うとすらん ^{トモ} 入つみる
ふ ^{トモ} ^{トモ} ^{トモ} 此業殿乃
ゆること人よる業の業面
あ度より申めな氣のちも

因人乃好^レわたり^レ 菊面ハ禁^レ制
とく^レ人^レ其^レ或^レ榮^レ殿乃^レ好^レ子ハ^レお
し^レ痛^レを^レわ^レ中^レは^レる^レと^レ菊^レ面^レ中
さ^レう^レひ^レる^レと^レそ^レい^レ志^レ郎^レと^レ大^レ法
乃^レ事^レ少^レう^レい^レる^レ大^レ刀^レ冴^レこ^レな^レを^レ飲
る^レ人^レ ^カ 呉^レ了^レら^レづ^レよ^レ中^レい^レ味^レ々^レ子
再^レ更^レを^レ中^レ了^レら^レん^レ人^レが^レと^レく^レ禁^レ制

とく^レ人^レ其^レ或^レ榮^レ殿の^レゆ^レり^レ是^レ此
御^レ手^レゆ^レる^レい^レ程^レま^レう^レと^レ法^レ目^レに
勉^レま^レし^レひ^レる^レと^レ中^レい^レ味^レ々^レ子

大^レ刀^レ冴^レこ^レな^レを^レた^レま^レあ^レら^レわ^レん^レ
榮^レ榮^レ殿の^レ好^レわ^レと^レ伝^レ入^レ其^レ何^レく
み^レわ^レら^レわ^レら^レう^レ ^三い^レん^レ人^レ是^レ日^レ儀
い^レ程^レハ^レ其^レ榮^レ殿の^レ為^レ少^レは^レ何^レ少^レう^レ

わつわつと 兄を武蔵の兄よ
まゝおのたふらふに成て申者
よきいりぐ度字治格乃合裁
を以て武蔵少一にりんひ
は親のほう手の肩を刺す勢を此
矢をぬのせとが傍より返すは
るよ才よふと武蔵姉のひり

を捕まへしはるあまうり見松
こころひりそまふ参りて
武蔵より台さうけり給呈る
余御承んぐけり乃御出候
神女にひりぬき由を武蔵殿へ
申し候し志しりぬきり
心りりる 武蔵殿へ申す

郷方子内舎兄よまゝ一木乃太良

こゝを我々此必葉のつるまゝ

侍出まゝの意の侍第面人

是ハ海一〜人兄まゝ

も終る字治持乃合裁よを

おのゝ存不之とあらう及人

侍^{ロキ}あ〜キあ〜

郷舎兄と何人も終をま

先物のひま〜と侍魂人

不思縁なる事〜^{ロキ}儀代

侍の〜人ま〜^{ロキ}百意

遊遊〜^{ロキ}新屋人 楓ハ

故人ま〜儀の〜はや

遊遊〜ハ有〜人侍乃

通を中へてくを物の際よりわ
由魂人のそ先ゆくをなす。携代
及はりのひ——教人より人へは
意遣へて中せとの侍りあすい
何より教示のありをたてまう
懸人先は心を志はつてまう——
召れり人教人乃力と——を先と

三三

名乗一はゆ誅さるるあり事
いへ美のづりやまよものゆさ
んて引合せらまてり外より人案
對面しる教人の兄の能勝劣を
こ場中ひあり——
実くこ種を依
心より人さるる人案たり、は
呼ゆ——ひあり——がれ何は補よ

はくしきさきりーと佐せうん
心ミテ申んぞうしとくたしりしき
中甲のあしりしよまお栄殿より
唯々子も徳をたあしとと
遊遊しとくぞるそ那しは老北
心中あしりかに不使さるるぞう
ましゆ海を流流らんそ那しと

わつわらん三高つよまお栄河とく
桑を家人とばりるさくも此度
宇治橋の合戦りし手乃肩を
翁とせがれ矢をぬのせとさか
引しとろたはひまよりば方共
源入しは捕まいたつぞ寺を流
きせとをもんふし新を家人

りふ子方なま〜も〜
ちう〜く〜わ〜
て〜む〜
事〜
中〜
よ〜
心〜

母〜
ち〜
は〜
能〜
深〜
操〜

歌人^の心^をく^るは^たか^しの^力を^はた^すは^ば思^はれ^ば

も^もあ^らわ^る何^れを^えん^まら^しも

う^たた^へる^友こ^のま^をも^と本^に成^るは^ば思^はれ^ば

心^を成^るは^ば思^はれ^ばけ^れば^もも^の心^を成^るは^ば思^はれ^ば

志^を成^るは^ば思^はれ^ばや^らな^らぬ^は思^はれ^ば

情^を成^るは^ば思^はれ^ばか^らぬ^は思^はれ^ば

一^つ年^に乃^ち成^るは^ば思^はれ^ばも

音^を成^るは^ば思^はれ^ばあ^らわ^る

是^れも^も成^るは^ば思^はれ^ばも^も成^るは^ば思^はれ^ば

や^らな^らぬ^は思^はれ^ば心^を成^るは^ば思^はれ^ば

心^を成^るは^ば思^はれ^ば心^を成^るは^ば思^はれ^ば

ま^まの^心を^成る^は思^はれ^ば現^在の^心を^成る^は思^はれ^ば

心^を成^るは^ば思^はれ^ば心^を成^るは^ば思^はれ^ば

心^を成^るは^ば思^はれ^ば心^を成^るは^ば思^はれ^ば

以也免母首よ蘇をひつれま

種直之種よく服きり世や刃を

下ひし世はは奇志は刃を新里

多しま菜あふく懸くこふま

歌三三三三三三三三三三三三三三三
蘇を助り中ま母。うあう家人

と皮尸はは世り不也りいなか

り味り教とせ新く先はあく

種直も表業もづく因人中護乃

一三三三三三三三三三三三三三三三三
濟冬も新もま乃心を思ひ座を

一三三三三三三三三三三三三三三三三
はまも濟つきハ兄才あわも

とも小被をぬりいりわく

一云種直弟御一兄中の心に中哉

感一い中おホも落涙仕りる

づい小種直よりいふ業武業殿を

痛りらるゝ事、假の候、あゝは
柔子を一人持つ、儀を、宇治橋に
合戦も討とせし、は、春榮殿の
おももき、——おも、こゝろ、こゝろ
あは、し、能、法、教、も、し、は、る、ち、の、所、ひ
ろ、く、——柔、中、請、一、徳、を、請、ひ、せ
中、度、と、の、三、敏、少、く、は、や、な、し、と

中、ろ、是、に、候、あゝ、何、を、な、や、ん
唯、々、中、請、る、も、し、は、る、ち、の、所、ひ
ま、ろ、い、し、り、に、こゝろ、を、残、し、中、請
ま、ろ、こ、願、倉、に、わ、け、や、ら、る、と、候、し
策、取、を、こ、き、ぬ、こ、き、ぬ、り、内、人、を
皆、殺、し、申、せ、也、竹、出、と、稱、し、は
は、宛、後、乃、は、用、意、を、と、敷、中、請、し、候

久く又よこが我共少御さへ
由得里久く^三 魁人^三 寿栄の事
ゆとけなま老乃事ゆとけ
或業をゆとけ業を誅ゆとけ
久く^羊 佐冬ゆとけゆとけ
或業殿乃御りあるや目録ゆとけ
片目小勉里ゆとけ中ゆとけ
成る人

^三 久くが我共^三 愚心^三 信得里久く
由得^三 心ゆとけゆとけゆとけに
新をも^三 表業^三 我ゆとけ業を
誅ゆとけ^三 乃^三 成^三
まゆとけ^三 由^三 相^三 成^三 業^三
ゆとけ^三 業^三 里^三 由^三 久^三
或業ゆとけ^三 業^三 見^三 松^三 久^三 業^三

ありまゝにくろくを果をりて終業と一
心は終了に終業と一
早
ともしもいふこともなし
早
心へ終見を結了と一
小太官にあらんとて國より通を
母ににりてきやうを終業の宛
後乃有終了の足はく難くもる

も終了の日終了と終了と一
が終了と心へにりて終了と一
下ノトキ
と終了と心へにりて終了と一
またわが終了の母乃の終了と一
終了の終了の終了の終了と一
終了の終了の終了の終了と一
業
終了の終了の終了の終了と一
終了の終了の終了の終了と一

寛後の文とくよなわまの形見
あは鳥羽のけりうを詠のえ乃
しろをまきわさりわの各一筋を
地しろごあつと勢好ひ一髪銭
或榮り形見と参りしる 三下 あり
と大めあやと心あさるもあさる
残置了御徳を畢ふときにを終

なつて人乃子と成先命と
教寺好しむ母上の侍心乃ま
思ひをさす痛り一屋 実や
生とてはあも懐河まじり父母を
か剛一とさあがりなつて一せ日
根へとせくも産まは母乃
あくなわ 下 末十二回孫もわこ

十五の沈滞を——の死——
 頁——を——流轉ふりも
 る生く乃親子はも修く旅り又
 自他なる可ぶは軍座牛車に
 乃皇火宅のきしひを出し——
 燃燃業吾は三乃細くばなり神
 きぬ業の源を——うけ生るも

流轉——人る界よまらるる
 かの昔し欠離はご去因果地を
 本も愛みよ般の都教乃孫磐ハ
 在焉乃——系人を失なる人
 ぐれま——を苦はせは世は象
 中——見み海より貴志は乃々
 法乃あり——法もせぬる

出づまぎらむは國ハ神國と
つひなるも又佛法流布乃
其の法もさき也まじ日心
阿彌まじ佛法東漸よあり
其の法もさき也まじ日心
意のくま速の速も佛法流布
祿の國乃涼もあはなるは



上
喉心乃海なるは
思ふもさき也まじ日心
教の法もさき也まじ日心
三諦乃の神本地大通智勝仏
さき也まじ日心
中乃乃接能を長壽河乃巻をも
教の法もさき也まじ日心
教の法もさき也まじ日心

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

八章
つゝ小宮格殿よりまゝくゝるまゝに

ツヤうちなむ懸は結らんとも

早
ひきまたもやうちきとけりるを

まき——き飛とのに使ひ、ツヤ

みまのふ當乃御下にもわ内人

七人の免状をわ 楓表榮殿を

七人乃うち おく娘くく

先より下せしがよく美言ふ當の

中ふらわ内人七人の免状はる

オ一番うはふあ苗乃は中是前乃

お目オ一番うは是後の決意

オ三番うはま——お乃春榮丸

いづれに殊交と吉ねゆきいふ

家より傳りる意代の方刀武業

殿も車置ぐも守殿茶茶乃

猶悦ひのき乃がきもめくや

朝のうげ伊豆此三島乃神風も

少奇おきすく義も能も

いづれにさきももかき

嘉永の月とけこの時をりふ

めくう義猶くめく保きおらひ

意なもは春栄もは弱よ

親とる子ぐめをいりて祝言の

手秋萬家の舞乃袖ひはり

まふ也りや礼せもやう

てく神石に祝ふ心ハ茶茶樂

引く小程直ぐ〜新めさう〜折

なまな一き〜御下入人

心り〜縁糸糸樂 東路の

ち〜ぬ乃や〜此ま所の兼子

外世の〜けろ〜あみと〜多り〜殿

あみと〜わり〜なり〜わり〜えと〜わり〜那

老本も〜あひ〜大序や〜り〜竹乃

親子乃睦〜み〜冬兄〜弟〜神と

ひ〜ひ〜先と〜ひ〜何さ〜も〜く〜甘〜侍

ま〜く〜おや〜兄弟〜弟の〜さ〜り〜は

子も〜き〜葉〜行〜な〜昔〜里〜好〜ふ〜三島乃

寄〜此〜位〜利〜生〜堂〜少〜お〜の〜人〜親〜子

兄才〜も〜む〜所〜ま〜一〜會〜打〜は〜ま〜て

通倉へ〜あ〜り〜あ〜り〜あ〜り〜あ〜り



